

行務以外他を顧ぬ

白井頭取禮讚の聲

が高い折柄一派の策謀
片腹痛き改造論

本縣農工銀行の重役改選期を機会に重役を奪取せんとせる一部策士連が農工銀行改造期成會の名下に廿五名(内十六名は株主に非ず)の名を連らね其

趣意書

なるものを發表し殊に決算も終了しない爲めに株主の名簿確定前即ち株主總會に先立つ約二ヶ月以前に委任状を集むる等狂態の限りを盡し識者の演斥を買ひつゝあるが現頭取白井博之氏は常に實際的の成績向上に努め各方面より禮讚の聲高き折柄なるに拘らず目的の爲めに

手段を

選ばざる頭取椅子の奪取運動より爲さるゝ一派の行動は寧ろ縣民將來の幸福を奪はんとするもの也との聲が高き平町某有志は此事を甚だ遺憾と爲し白井現頭取の進退行藏に就き左の如く語つた

「最近一部の反對側から發せられた趣意書なるものには、白井氏が月の半分位を平町で送り、農工銀行の方を缺勤することなども決して感心出来ぬ」と云ふ様なことが記されてあるが、あれなどは甚だ事實に遠い觀察で氏は磐城銀行の方は同行専務である嗣子の一氏氏に全部の經營を委せて殆んどこれを顧みないのみならず中央に於ける自分の用務などは一切を自分の手に専心農銀頭取とし

御挨拶

種々御心配をかけた私病氣も其後非常に経過良

川崎文治

常警毎日新聞社
六月四日

く而も知つて尙ほ之程云爲をするものとするれば無稽も甚だしい宣傳といはねばならない云々

防疫網設定

本縣では既報の如くかねて計畫してゐた細菌検査所を平町と若松市に設け十六七日頃から開設することになつたがこれが開所と同時に



家庭欄

ウーマンの責方

いよゝ本物の夏となつてそろゝウーマンの動く時季となりまじだが、家で炎のウーマンはどうして美味

其計畫

は縣外より入来るおそれのあるコレラ

眼とするもので若しコレラが海岸地方に發生したとすれば防疫本部を平町の細菌検査所において警察本部と連絡の下に之れが防疫に努め若松市は主として越後口

汽車の窓から

幼女がゆり落さる

然も奇蹟的に無怪我

石城郡好間村上野原渡邊豊次郎は妻女と三女ミサヲ(三)を伴ひ三日午前七時四十分上野原發下り列車にて歸國の途同列車が荒川沖驛を發して約十箇餘を進行しつゝあつた際窓際にすや

女房を遣して

ト口に轢かる

避くる暇なく

居睡つてゐたミサヲは振動の爲め窓から墜落した騒ぎに列車を三分間停車し直ちに救助したが不思議なことミサヲは微傷だも負はず線路外に平氣でゐたので両親も夢かと許り喜び水戸驛に着くの待つて下車

石城郡豊間村八幡町鈴木伊之助方製板職工群馬縣生れ赤城伊作(五)は妻カツと共に去る二日切に當る同郡警崎村小野田坑の職工久保勝造方に赴かんと十一時四十分湯本驛に下車途中同炭礦の輕便鐵道を歩み笠井の隨道に差し掛つた際後方よりトコ疾走し來り避けんと

飛行場見學

石城郡下町村長が

せる暇なく伊作は其場に轢き倒され慘死したと

平町物價

品名	量目	價格
白米	一升	四八〇〇
白米	二升	四七〇〇
白米	三升	四六〇〇
白米	四升	四五〇〇
白米	五升	四四〇〇
白米	六升	四三〇〇
白米	七升	四二〇〇
白米	八升	四一〇〇
白米	九升	四〇〇〇
白米	一斗	三九〇〇
白米	一石	三八〇〇
白米	一石	二七〇〇
白米	一石	二六〇〇
白米	一石	二五〇〇
白米	一石	二四〇〇
白米	一石	二三〇〇
白米	一石	二二〇〇
白米	一石	二一〇〇
白米	一石	二〇〇〇
白米	一石	一九〇〇
白米	一石	一八〇〇
白米	一石	一七〇〇
白米	一石	一六〇〇
白米	一石	一五〇〇
白米	一石	一四〇〇
白米	一石	一三〇〇
白米	一石	一二〇〇
白米	一石	一一〇〇
白米	一石	一〇〇〇
白米	一石	九〇〇
白米	一石	八〇〇
白米	一石	七〇〇
白米	一石	六〇〇
白米	一石	五〇〇
白米	一石	四〇〇
白米	一石	三〇〇
白米	一石	二〇〇
白米	一石	一〇〇
白米	一石	〇

宣傳標柱寄附

石城郡神谷村消防組頭佐藤久三郎氏は火の用心及び左側通行等の宣傳標柱を數十本平町大音堂にて調製せしめ是れを村内社々に建設寄附した

募集

文藝其他投稿を募集します

上小川の駒市

来る九日例年の通り上小川村常慶寺境内に於て二才駒驛を行ふが本年馬数は百二十頭である

平町人事

出生
△南町六〇 鶴沼五郎氏二男政雄
△五丁目一三 酒井登三(七三)

水産協議會の協賛會を設立

来る九、十の兩日小名濱町縣立水産試験場に開催される東北六縣聯合第一回水産

恩師に金盃を

石城郡山田村小學校教員赤津才松氏は同校に就任以來十九ヶ年に達する爲め明五日午前九時より同窓生相集り謝恩會を開き三ツ組金盃及び金四百圓を贈る由

水産協議會の協賛會を設立

来る九、十の兩日小名濱町縣立水産試験場に開催される東北六縣聯合第一回水産

理想的にと準備を急ぐ

小名濱保養所

既報赤十字福島支部が今年初めての試みであるが小名濱に於ける夏季兒童保養所は八月一日から三週間開かれ目下收容兒童の募集中だ

懸賞當選者

本日抽籤で
有聲座懸賞は「説明者大森茂君が中島寫眞館と釜屋商店を紹介しました」と云ふ

有聲座の

衛生講話赤十字の話し、お伽噺、兒童の談話、遊戯、音楽、ラヂオ、蓄音機、教育活動寫眞等を行ひまた日課は教務主任の福尾、小名濱小學校長が目下考案中で支部では眞に理想的の臨海學校をやりたいと意氣込んでゐる、なほ今年は初めてのことでもあり身體の丈夫な子供の入所を歓迎する

意味を以つて回答せられたるが正解者にも本日本社員立會の上抽籤の結果左記の如く特賞五名及び普通賞廿名を決し有聲座の優待券及び中島寫眞館並に釜屋商店寄贈の賞品を贈る事となつた因に當選者は認印持參の上有聲座木戸口にて賞品を受取られ度し

(特賞) 田町白島信義、南町小林スミ、大工町高崎喜代子、田町宮川武夫、赤井村本田キヨノ(通賞) 白銀町廣川あさ、二丁目坪山末吉、四倉町緑川藤夫、大工町根本輝子、新川町梅津正嘉、大工町高崎喜代、三丁目金成清銀治町小峯博、古鍛冶町蓬田茂、田町小齊フクヨ、新川町伊達静、才地小路

辨田幸三郎、南町中山庄七、北目町鈴木源一、仲間町穴戸波江、才地小路三浦金治、二丁目吉田星兒、一丁目穂積廣二、白銀町小松ツネヨ、六丁目竹田イナ子、
恩師に金盃を 石城郡山田村小學校教員赤津才松氏は同校に就任以來十九ヶ年に達する爲め明五日午前九時より同窓生相集り謝恩會を開き三ツ組金盃及び金四百圓を贈る由
水産協議會の協賛會を設立 来る九、十の兩日小名濱町縣立水産試験場に開催される東北六縣聯合第一回水産